

報道関係者各位

特定非営利活動法人ノーベル (<http://nponobel.jp/>)
 大阪市中央区内本町2-4-12 中央内本町ビルディング701
 担当：吉田 綾
 Tel : 06-6940-4130
 mail : pr-nobel@nponobel.jp



保活だけでは乗り切れない！働く親の最大の壁「子どもの急な病気」をサポート
15年8月～八尾市・守口市・東大阪市・堺市の一部で
ノーベルの病児保育が利用可能に

NPO法人ノーベル(大阪市北区・代表高亜希)は、ギャザリング方式にて新たに、**八尾市・守口市・東大阪市・堺市のほぼ全域にて訪問型病児保育を展開**することを決定した。東大阪市・堺市の一部では以前より病児保育を提供していたが、さらに提供エリアを拡大。八尾市・守口市両市は今回初めて提供エリアとなった。これにより**2015年8月より、大阪市、吹田市、東大阪市西部・豊中市南部、堺市北部、守口市南部・八尾市西部にて訪問型病児保育サービスが利用可能になる**。利用には説明会への参加が必要で、来月8/1(土)開催の利用希望者向け説明会から新エリア居住者も参加が可能になる。

■働く子育てファミリーが抱える最大の悩みは、子どもの急な発熱。

37度5分以上の熱を出すと保育園では預かってくれない。その現状に対し、病児保育施設は全国で約800程度と極めてすくない。安定した運営が難しく、経済的自立ができないためである。子どもの熱は突発的なので、施設は安定した収入確保が困難で、行政からの補助金には規制があり赤字になってしまう。

そこで、NPO法人ノーベルは2014年2月、**従来にないタイプの共済型・地域密着型病児保育**を事業化した。利用者は年々増加し、昨年2014年4月からは、大阪市淀川区から委託を受け、通常の半額以下の料金で病児保育を提供し、淀川区だけで100組以上の利用会員が登録、全エリアでこれまで800世帯が登録・利用している。

■注目が集まりつつある訪問型病児保育

淀川区が政令市例都市ではじめて訪問型病児保育事業に乗り出し、この夏、訪問型病児保育を題材にしたマンガ「37.5℃の涙」もドラマ化され、今まで働く親当事者だけの問題だった「病児保育問題」が少しずつ世の中に認知が広がりつつある昨今。しかし、病児保育は圧倒的に足りておらず、育児と仕事の両立の大きな壁である。病児保育は本来、待機児童問題と並行して進めなければならない問題だが、行政も民間も取り組むことができていない**保育領域の中で最も社会的に取り組みが遅れている分野である。**



【説明会開催のお知らせ】 ご利用を検討されるは説明会へお越し下さい
 8月1日(土) 10時～/13時～ 8月14日(金) 10時半～

NPO法人ノーベルは、子どもを産んでも当たり前前に働き続けられる社会を実現するために2009年4月に設立されました。